

平成21年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	22		学校名	茨城県立緑岡高等学校				課程	全日制				学校長名	秦 雅 博			
教頭名	大 原 保 夫		額 賀 俊 光								事務室長名	森 保					
教職員数	教諭	50	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	2	実習教諭, 実習講師, 実習助手	4	事務職員	4	技術職員等	2	計	67	
生徒数	小学科	1年		2年		3年		合計		合計クラス数							
		男	女	男	女	男	女	男	女								
	普通科	162	78	173	66	168	71	503	215	18							
理数科	32	8	30	9	28	11	90	28	3								

2 目指す学校像

文武不岐の伝統精神のもと、高い知性とたくましい心を持つ生徒を育成し、一人一人の希望を実現するとともに、社会に貢献する人材を輩出することにより地域社会から支持・信頼される学校を目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現 状 分 析	課 題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間55分実施が2年目となり軌道に乗っている。 「授業第一」を実践するため、出張等には授業振替を徹底して行っている。 公開授業週間を前後期2度実施している。 「家庭学習の記録」を作成させ、時間の効率的な使用を指導している。 学習室を平日は19時、土曜日（12月～3月は土・日曜日）は17時まで開放し、自学自習のための利用を可能としている。 授業開始前・放課後、土曜日、長期休業中の課外授業等を実施し、基礎学力と発展的学習の強化に努めている。特に、夏季課外は1、2年生が全員の、3年生は希望者ながら長期の課外授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業振替率は94.8%で前年度比+3.9%となり限界に近い。 授業の質的向上に資するため、教科をまたがった積極的参加を進める。 自宅学習時間に二極化が見られる。個々の生徒の状況をふまえた指導を行っていく。 環境の整った学校施設での学習を勧め、利用生徒数の増加を図る。 希望者課外について、参加生徒数の増加と出席率の向上を図る。
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 現行教育課程の実施状況を検証し、次年度教育課程の編成に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望している進路に最適の教育課程を検討し、進路実現を図る。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 現役国公立大学合格者数89名、現役進学率68%であった。 大学教官による模擬授業、大学・研究所訪問視察、理数科校外学習、進路講演会、キャリア教育講演会、学問観・職業観育成セミナー等により進路意識や学習意識を高めることができた。 生徒実態調査を年2回実施分析し、学習等の意識や状況を把握して指導に生かした。 	<ul style="list-style-type: none"> 合格者、進学率とも向上が見られた。国立難関大学への合格者を増加・維持させていくことが必要である。 引き続き実施し、進路選択に役立てる。また、積極的な大学訪問を勧めていく。 結果のフィードバックや進路に係る情報を定期的に発信し、一段上の進路実現を図る。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、マナーアップ週間を設定し、遅刻・服装指導を実施した。 通学路における自転車の安全運転を指導し、施錠徹底等防犯意識の高揚を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通事故防止、服装指導等、継続的に教員の共通理解を持って指導を進める。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への参加率は、80%を超えている。活動も活発である。 緑高祭等の学校行事を例年通り実施した。 緑歩会においては安全なコースで実施した。 生徒会活動の活性化を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動と勉強との時間のバランスをはかる。 実施時期や内容については、引き続き検討が必要である。 新しい学校行事として全日HRを実施する。 生徒会本部役員の内候補者数の増加と、活動期間の長期化が必要である。
事務	<ul style="list-style-type: none"> 予算の効果的執行と条例規則に則った適正な事務処理を行っている。 施設、設備を適切に管理している。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故やミスのない体制構築とチェックの励行を実施する。 安全面のチェックとともに、県有財産の維持・管理を徹底する。

4 中期的目標

- ・将来の職業を意識した進路指導を実践し、現役合格率80%，国公立大学現役合格120名，難関私立大学合格30名を目指す。
- ・質の高い授業を行うと共に，発展的・補足的な指導を提供する。
- ・授業中心の意識を徹底し，家庭学習時間を確保する。
- ・部活動や委員会活動を充実し，社会性・実行力・たくましい精神を養う。
- ・全教職員の共通理解のもと，生徒の実態を把握し，規律を重んじ思いやりのある生徒を育成する。
- ・教科・担任・部顧問等の間で生徒の情報交換を密にし，協力してきめ細かい指導を行うことにより，生徒・保護者との信頼関係を構築する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
・授業第一の教育活動と自学自習時間の増加	①授業の質的向上を図りその成果を授業へ反映させる。 ②授業を受ける体制をつくるための予習・復習の実行を強化する。 ③基礎学力強化学習や発展的学習のための補習を行う。
・進路面談の強化と進学実績の向上	④現役での国公立大学合格者100名，難関私立大学合格者30名，現役進学率70% ⑤各種試験結果の分析とそれを生徒一人ひとりに活かす指導を行う。 ⑥各生徒の情報を関係教員が共有し協調して学習・進路指導に当たる。
・規律遵守の意識醸成	⑦教職員の共通理解により生徒の意識を高める。(礼儀，校則，公共心など)
・特別活動や学校行事への参加意識の高揚	⑧生徒会活動，学校行事，部活動などへの積極的な参加を促し自己管理能力を高める。 ⑨学校行事の内容や実施時期の検討を行う。
・適正な事務事業の実行	⑩予算の早期執行と適正な処理を行う。
・新規施策の企画と実現	⑪普通科・理数科の一括募集と学校活性化策を策定し，実現に結びつける。 ⑫平成23年度の50周年記念行事のアウトラインを決定する。 ⑬「道徳」授業の新担当者への引継ぎと最終サイクルとして改善を行なう。